

第2章 浜頓別町の概況

第1節 自然条件

第1 位置及び面積

浜頓別町は、北海道の北端部に近く、北緯45度に近い位置に存在している。浜頓別地方の地形は、大別して山地帯と平地帯に分けることができる。

町の前面にあたる北東部にはオホーツク海が広がり、後背地にあたる南部には500mないし800m前後の高度を持つやや険しい山地帯が複雑に広がる。北西は宗谷郡猿払村に、南西は天塩郡幌延町及び枝幸郡中頓別町に隣接し、南東は枝幸郡枝幸町に界しており、その面積は401.56km²に及ぶ。

図表 浜頓別町位置図



第2 気象

毎年冬になると、オホーツク海特有の流氷が接岸するが、海洋性気候のため、氷点下20度を超えることはまれである。夏は概して涼しく、最高気温が25度を超えることは少ない。風は年間を通じて東北東の風が多く、早春と秋には南西の風が多くなり、沿岸特有の季節風が他の地域と比べると強い。積雪は、毎年11月下旬から始まり、市街地で最深1~1.5mの積雪となり、風が強く、しばしば吹雪に見舞われる。また、融雪期は3月下旬である。

資料編〔図表等〕 ・町の気象概況（図表1）

第2節 災害の概況

浜頓別町では、過去の災害記録から、主な災害は、火災及び暴風、台風による風水害、風雪害等が挙げられ、これまで地震災害については、大きな被害は記録されていない。

参考までに、道内における自然災害及び事故災害について、主に次のようことが挙げられる。

第1 気象災害の特徴

1 春の災害

冬期間の積雪が春先の連続する高温と低気圧、前線の結びつきによって融解が促進され、いわゆる融雪災害が起こる。発生する時期は、おおむね3月末から5月末まで続く。この季節は、低気圧が接近すると暖かい南風が吹き込んで気温が上昇し雪解けが進むところから、少量の雨でも洪水となり、融雪災害が発生する。

2 夏の災害

北海道には、梅雨がないといわれる。しかし、梅雨前線が北上し、津軽海峡付近まで来て、その前線上を低気圧が通過すると本道の南岸は、大雨に見舞われる。

最近は、これに似た型で前線や気圧の谷の中、大気が不安定となり積乱雲が次々と発生して小さな範囲の地域に集中豪雨が発生し、災害を起こす回数が多くみられる。

3 秋の災害

この時期は、低気圧と高気圧が日本付近を交互に通って、天気は周期的に変化しやすく、また、台風の最盛期でもある。台風が本道に接近する頃は、この勢力が弱まっているのが普通であるが、時に勢力を維持して北海道へ接近し、昭和29年の洞爺丸台風や平成16年の台風第18号のように甚大な災害をもたらす場合がある。

このような台風による雨と風、又は台風により前線を刺激して大雨を降らすことによる災害は年1~2回平均発生をみている。

本町においては、8~9月にかけて台風及び集中豪雨による被害が過去に記録されている。

4 冬の災害

冬期に入ると本道の日本海沿岸から太平洋に低気圧が襲来する。その中心気圧は970ヘクトパスカル以下に発達するものもあり、その気圧の低さは、台風以上の場合もある。

襲来する時期が冬のため、降水は雪となり、そのため雪害による交通障害及び波浪による護岸、道路決壊等の災害が発生する。

本町における雪害では、吹雪、雪崩、電線着雪等により、公共交通の乱れ、通行障害が発生し、交通・通信、産業等に被害をもたらすことが考えられる。

第2 その他災害について

本町で起こりうるその他災害としては、近年道内で竜巻等による死傷者や住家損壊等の被害が発生していることから、竜巻等の突風による災害の発生が考えられる。

その他気象災害以外の災害では、地震災害といった地象災害や火災をはじめとする事故等の災害が想定される。

資料編〔図表等〕 ・ 町の災害記録（図表2）